

チームイノベーション 活動報告

Road to Innovation

2023.12.1

渥美・大友・小野・今野・田中・鳥村・成澤・神尾

“イノベーション”ってなんだろう

【新しいものと古いものの融合？】

【アイデア・技術の革新？】



異なるフィールドでの考え方・仕組みを取り入れて
新たな価値を生み出す。

イノベーションの舞台設定

第一次産業の衰退

仙台に対する
イメージの固定化

若者の流出

魅力の発信不足

横丁・路地裏
魅力

車社会でアクセスが
難しい地域あり

課題を解決し、魅力を引き出すことで、
路地裏・横丁にさらなる価値を生み出したい

フィールドワーク1: いろは横丁 (中央市場商業共同組合)

8月 9日 組合代表:佐藤守彦さん

目的

『 想定した横丁の課題に対する現状を知り、解決への糸口を探る 』

質問

横丁に対するイメージによって、客層の固定化を招くのでは？
客足が伸びにくいのでは？

結果

- ・女性用トイレの整備
- ・若い人が運営するカジュアルな飲食店・衣料店の増加
- ・SNSの活用
- ・誰でも入りやすい空間づくりへの取り組み



客層の拡大・新規客の増加

フィールドワーク1: いろは横丁 (中央市場商業共同組合)

当事者として、横丁が特に意識していた課題は...

『地震・火災に対する備え』

『治安の問題』

『土地開発に関すること』



私たちが“自分ごと”として
アクションを起こすのは難しいのではないか...?

視野を広げて考えると...

“横丁は飲食店の集まり”



食を取りまく課題は？



地産地消

フードロス

第二回フィールドワークの設定

地産地消



フードロス

アップ
ローチ

道の駅

産直としての機能を持つため、地域農産物や地域の農家によって支えられている。

野菜だけでなく、地元産の肉・加工食品も扱う。

特に“売れ残った地域の食品”に
目をつけ、活かし方を探る

目的

フードバンク

フードバンクは、企業・市民・生産者など、さまざまな方面から食品の寄付を受け、必要な方へ支援する。

フードロスの現状を知り、
に向けたアイデアを探る

解消

～新たなテーマとなる課題を見つける～

地産地消

フードロス

現状
・
仮説

仙台市・周辺 (宮城県) の農産物の
特徴・魅力をあまり知らないのでは？

(平成29年11月のフードロス実態調査)

生ゴミの 3割 がフードロス、
割 は手付かずの新品の状態だった

そのうち 6

期待
する
効果

・食の固定化されたイメージ解消のきっかけ
・地域に根強い食材・食事法が見える(食育)
(文化的・教育的効果)

・環境への配慮・処理費用の削減
・意識定着で社会全体での効果
(環境的・財政的効果)

地産地消 × フードロス

二つの課題の接点を見つけ、イノベーションを考える

フィールドワーク2：あ・ら・伊達な道の駅(大崎市)

8月21日

目的

『あ・ら・伊達な道の駅でのフードロスの実態・活用方法を探る』

質問
・
希望

- ・道の駅での売れ残った野菜・食品はどうなるのか？
- ・うまく活用して仙台との結びつきを作れないか？

結果

スーパーなどとは異なり、生産者が直接生鮮食品を棚に並べる。
鮮度と味に最も価値を置くため、売れ残れば生産者が自ら持ち帰る。

道の駅(産直)では、フードロスという課題がそもそも発生しない...

フィールドワーク2： フードバンク仙台

8月24日

目的

『フードロスの現状・取り組みを探る』

質問

- ・農家とフードバンクのつながりは？
- ・寄付された食品を誰が求めているのか？

結果

- ・生産者から農産物の寄付も対象だが、生産者の負担が大きい
→ 圃場廃棄物あるため。
- ・フードバンクは貧困とフードロスの課題の橋渡し。
→ 貧困 という課題が見えてくる。

圃場廃棄物:畑で収穫されず、放置・廃棄されている農作物

フィールドワークを終えて...

地域で取れた 圃場廃棄物 を活かして



フードロスの解消



フードロス



地域食材の活用



地産地消

フィールドワークを終えて...

地域で取れた 圃場廃棄物 を活かして



フードロスの解消

地域食材の活用

フードロス

貧困

地産地消

子ども食堂(社会福祉協議会)へのコンタクト

フィールドワーク3: 仙台市社会福祉協議会

目的

『貧困解決に向けた子ども食堂の役割と取り組みを知る』

結果

子ども食堂の立ち位置

- ・貧困家庭の子どもの利用だけでなく
地域の子ども居場所作りに貢献

子ども食堂を、“食育とフードロスを学ぶ教育的な場”として提供する
ことで、
今まで敬遠していた方でも利用しやすくなるのではないか？

アクションプラン： 子ども食堂を舞台にした食育

道の駅との
繋がり

子ども食堂
(孤食)

フードバンクとの
繋がり

地域野菜
(地産地消)

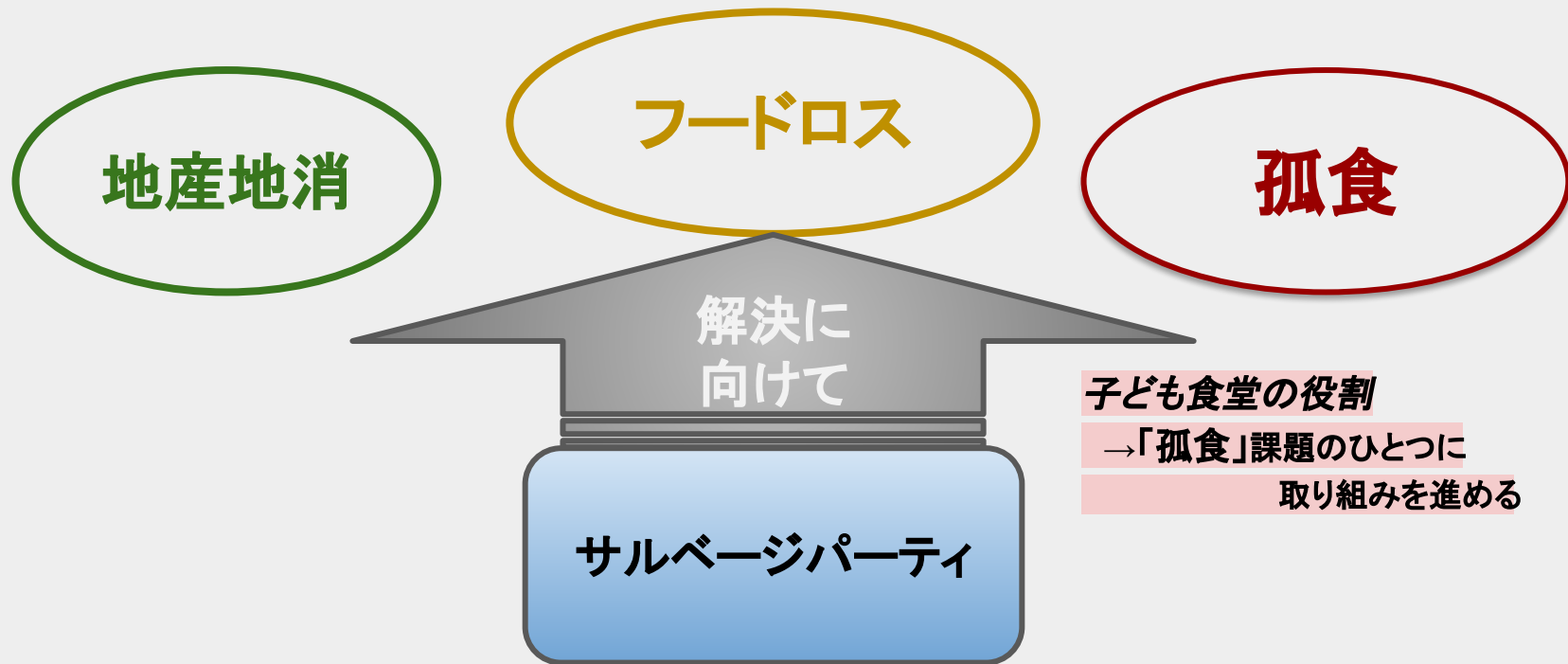
圃場廃棄物
(フードロス)

農家：採れた野菜に規格外品の考えを持っていない

子ども食堂：いくつかの団体に声をかけたが、連携が取れない

→イベント実施にあたる時間的 モノ的な不足が多かった為
このアクションプランを断念...

新たなアクションプランの立案



サルベージパーティーとは？？

冷蔵庫で眠る食材
買いすぎた食材
期限が近い食材

を複数人で持ち寄り、
それを使って料理することで、
食材を廃棄処分から“**救い出す**”イベント

フードロスの観点から生まれた、
課題を楽しく解決するアイデア

salvage

- ・救い出す
- ・船を引き揚げる

三つの課題へのアプローチ

地産地消

地元農家の
圃場廃棄物

フードロス

“救い出した”食材

孤食

複数人で集まること
での空間づくり

『実験的にサルベージパーティを開催するのはどうか？』

私たちの考えを仙台の多くの方に知ってもらうことで、

地産地消・フードロス・孤食

に対する意識変化の一步につながるのでは？

アクションプラン:

サルベージパーティの実施

フードバンク仙台を通して農家の方から規格外野菜
を提供していただくことが実現
(里芋・にんじん・かぼちゃ・ねぎ...)



地元農家からの野菜と持ち寄った食材
を活かして仙台風芋煮をつくる

みんなで集まってする料理が、
賑わいの空間を生み出す



アクションプラン: リーフレットの制作・配布

目的

『 三つの課題意識をもとにしたサルベージパーティの普及 』

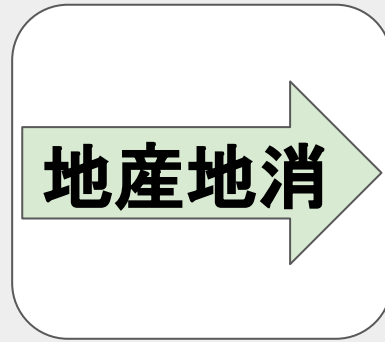
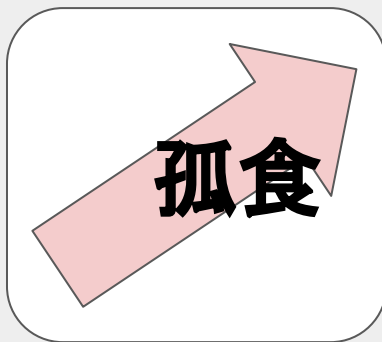
課題
意識

- ・フードロスの解消
- ・地産地消の促進
- ・孤食の解消

配布
先

学校・児童館・コミュニティーセンターなど

アクションプランを終えて



改善余地あり

地域コミュニティ(学校や児童館)単位で実施することで、
より網羅的に3つの問題に触れることができそう！

総括

地産地消 × フードロス × 孤食

3つのフィールドの仕組みや問題を取り入れた

「課題解決への新しいアプローチの方法」

総括

イノベーションとは

異なるフィールドでの考え方・仕組みを取り入れて
新たな価値を生み出す。

解決への新しいアプローチの方法

=イノベーションへの切り口

と言えるのではないか？

活動全体を通した学び

イノベーションは...

とても難しい!!

課題が芋づる式であることや、課題設定の見定めなど...

課題に対して
まず行動し、試行錯誤を繰り返す事が
イノベーションを起こすには必要不可欠